

有 珠 山

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

○火山活動評価

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

○噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況（2022年7月～2023年6月）

2022年7月以降の発表履歴	現在の警報・予報（噴火警戒レベル、キーワード）
変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）

○2022年7月～2023年6月の活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図1-②～④、図2～6）

監視カメラによる観測では、山頂火口原からの噴気の高さは火口縁上200m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

2022年9月27日と2023年4月13日に国土交通省北海道開発局の協力により実施した上空からの観測及び2022年11月16日に実施した現地調査では、山頂火口原及び西山西麓火口群N-B火口の噴気や地熱域の状況に特段の変化はありませんでした。

・地震及び微動の発生状況（図1-⑤、図7）

火山性地震は主に山頂火口原直下と昭和新山直下の深さ1km以浅で発生しました。地震回数は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図8、図9）

GNSS連続観測では、火山活動の高まりを示すような変化は認められませんでした。

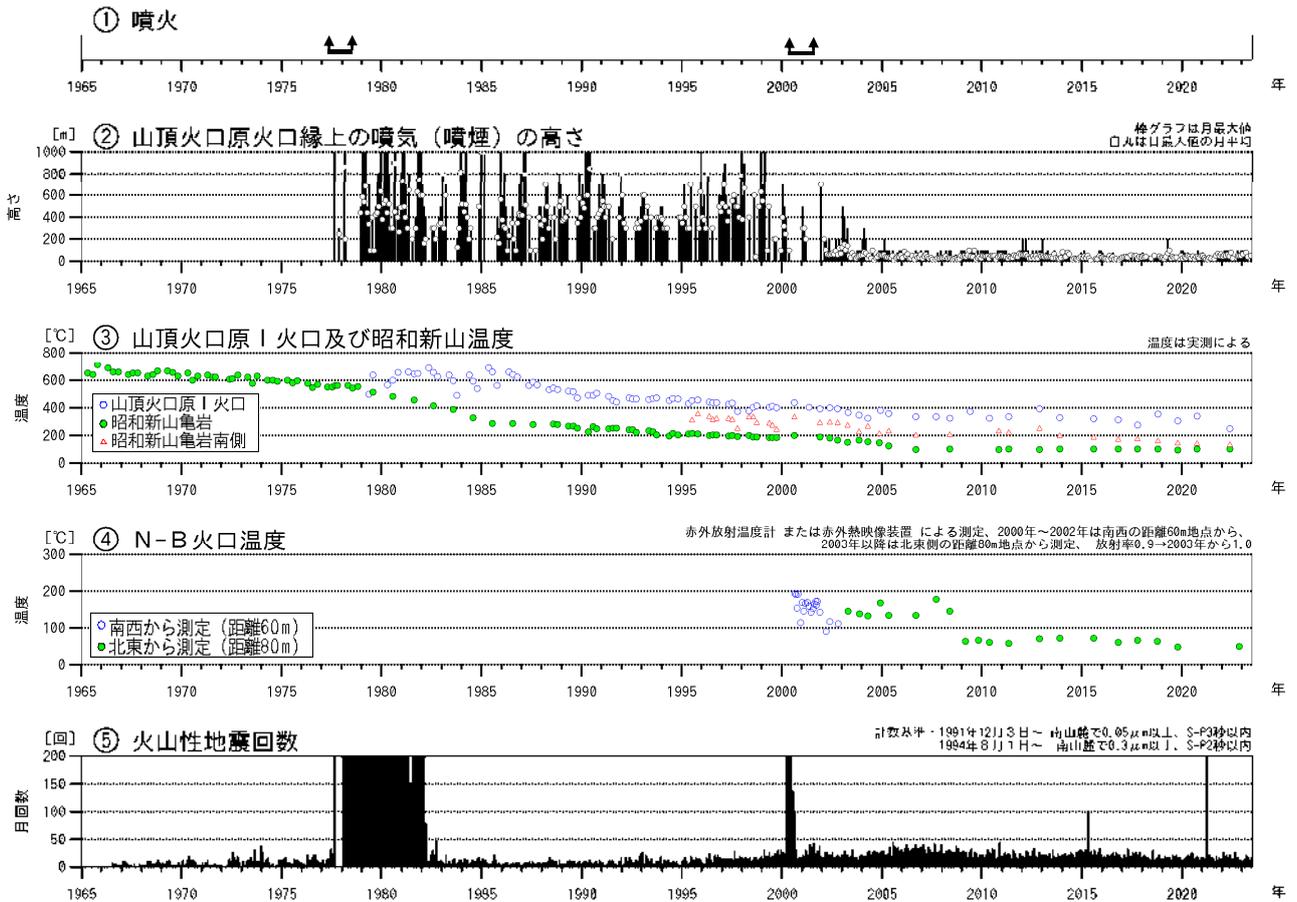


図1 有珠山 火山活動経過図（1965年1月～2023年6月）

↑印で挟まれた期間は噴火活動期を示します。

⑤の地震回数で、1991年12月2日以前の計数対象観測点は以下の通りです。

- 1966年7月1日～ 大有珠から南東側約1.8km地点
- 1976年8月31日～ 山頂ロープウェイ駅付近
- 1978年1月12日～ 大有珠から南西側約3km地点



図2 有珠山 北西側から見た山頂部及び周辺山麓部の状況（月浦監視カメラによる）

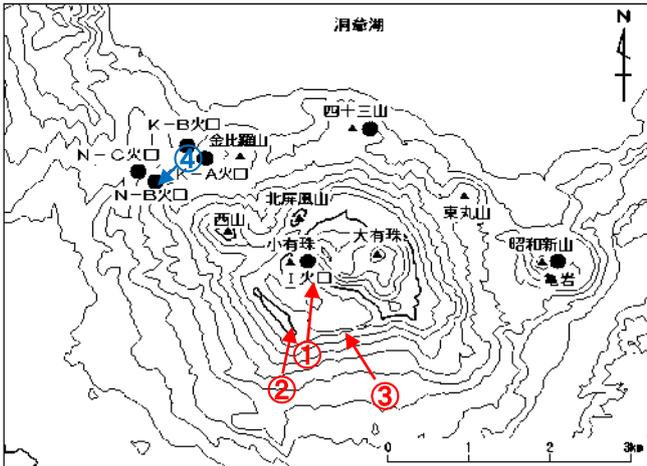


図3 有珠山 赤外熱映像及び写真の撮影位置（丸数字）と方向（矢印）



図4 有珠山 山頂火口原の状況
南側上空（図3の①）から撮影

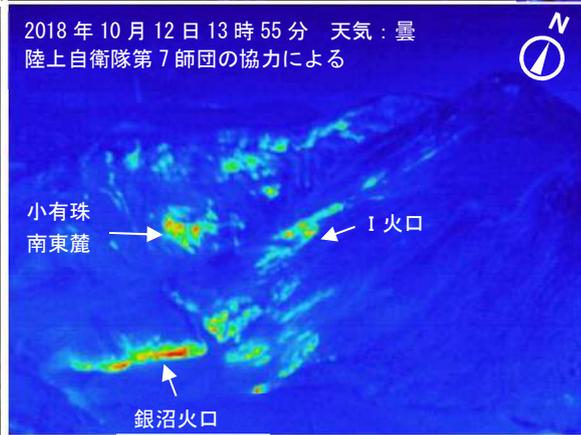
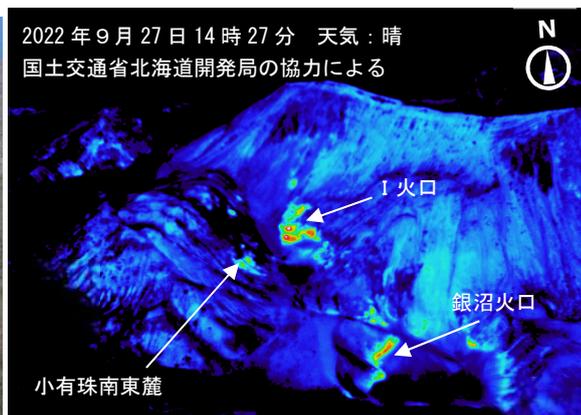


図5 有珠山 赤外熱映像装置による山頂火口原の地表面温度分布

上：南側上空（図3の②）から撮影

下：南側及び南東側上空（左：図3の②、右：図3の③）から撮影

- ・過去の観測（2018年10月12日）と比較して、山頂火口原内の噴気や地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

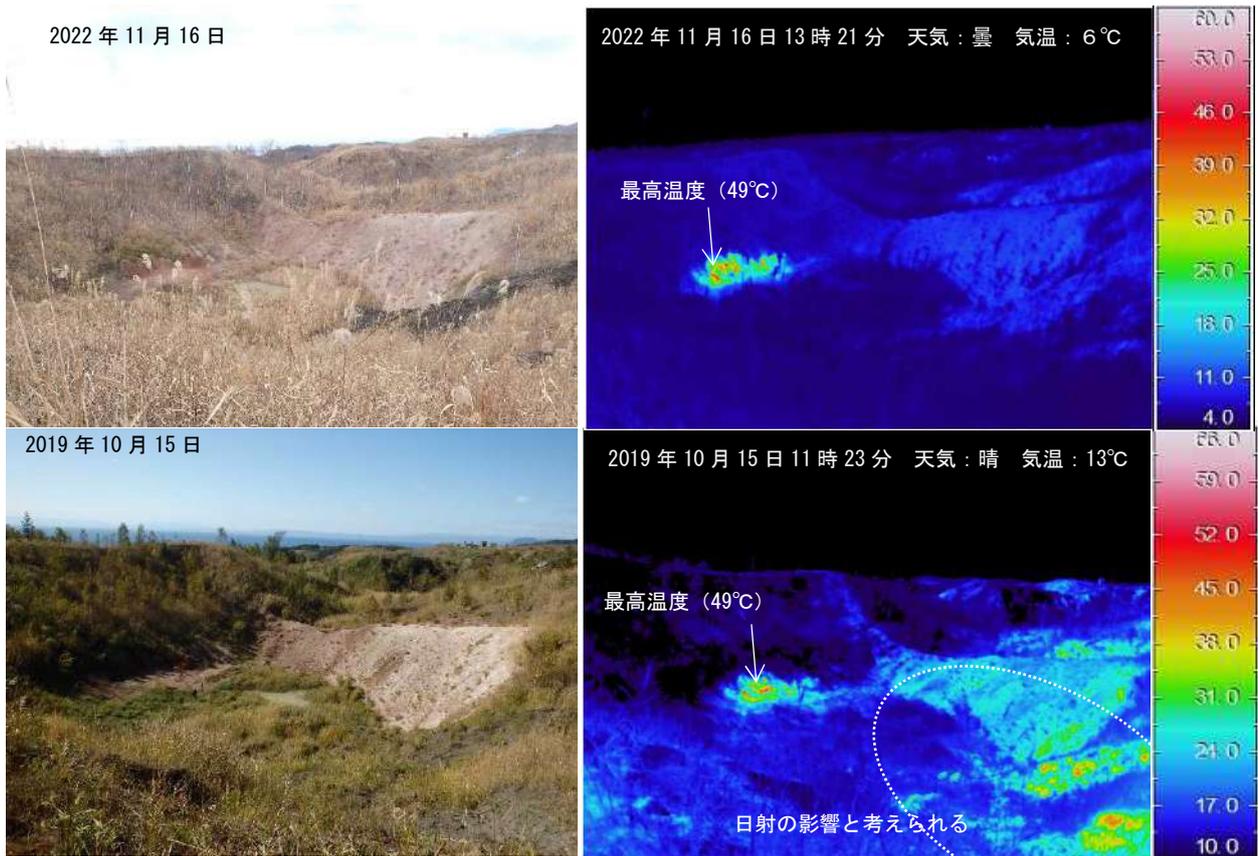


図6 有珠山 赤外熱映像装置によるN-B火口の地表面温度分布
北東側（図3の④）から撮影
・前回の観測（2019年10月15日）と比較して地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

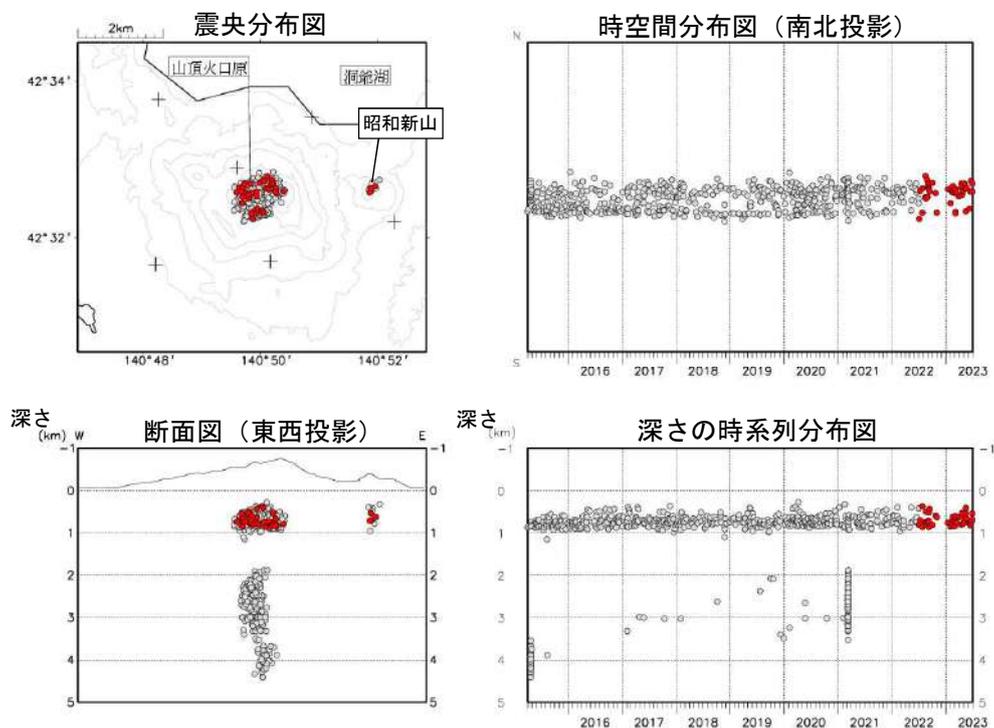


図7 有珠山 火山性地震の震源分布（2015年4月～2023年6月）
●印：2015年4月～2022年6月の震源 ●印：2022年7月～2023年6月の震源
+印：地震観測点

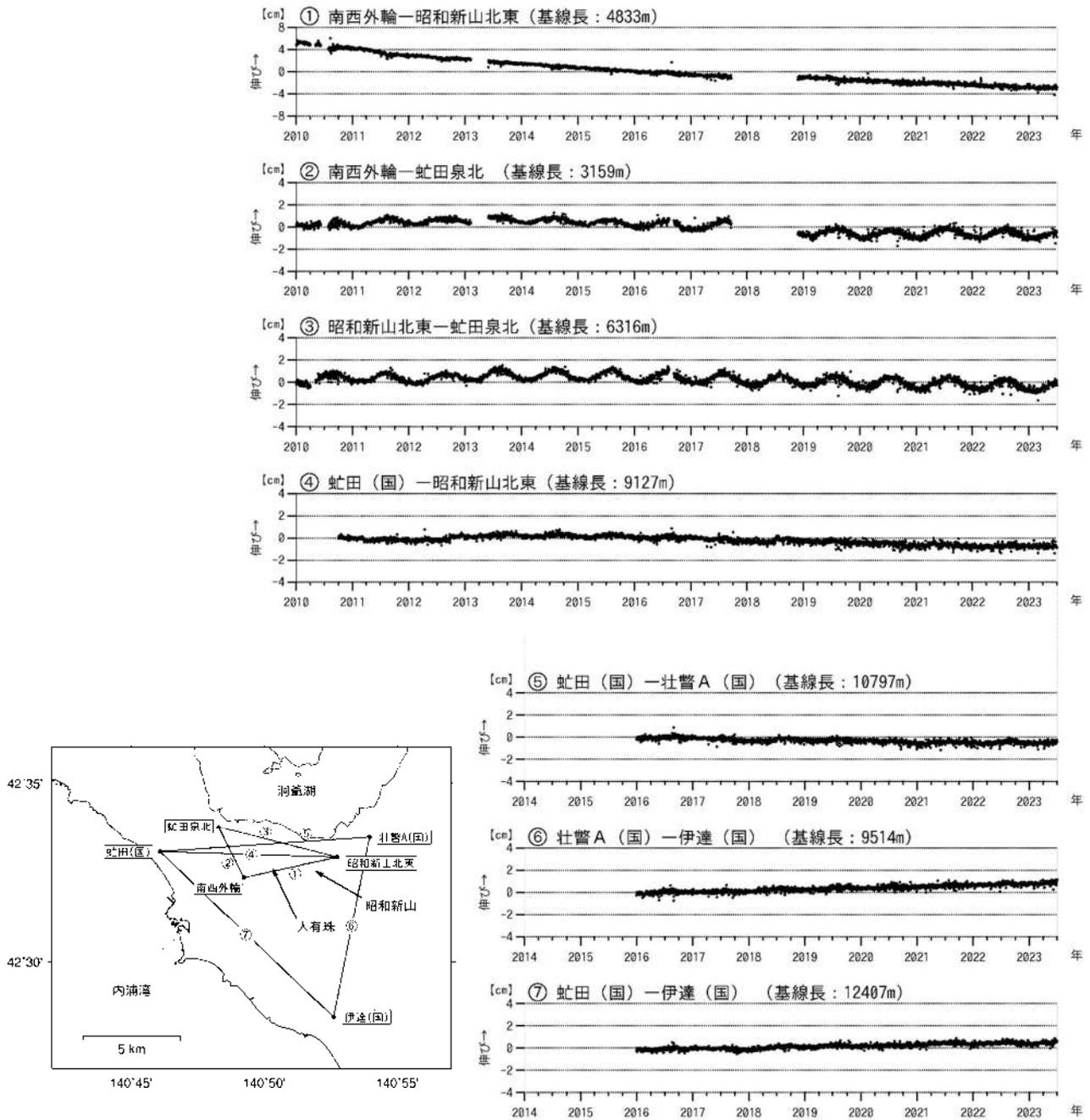
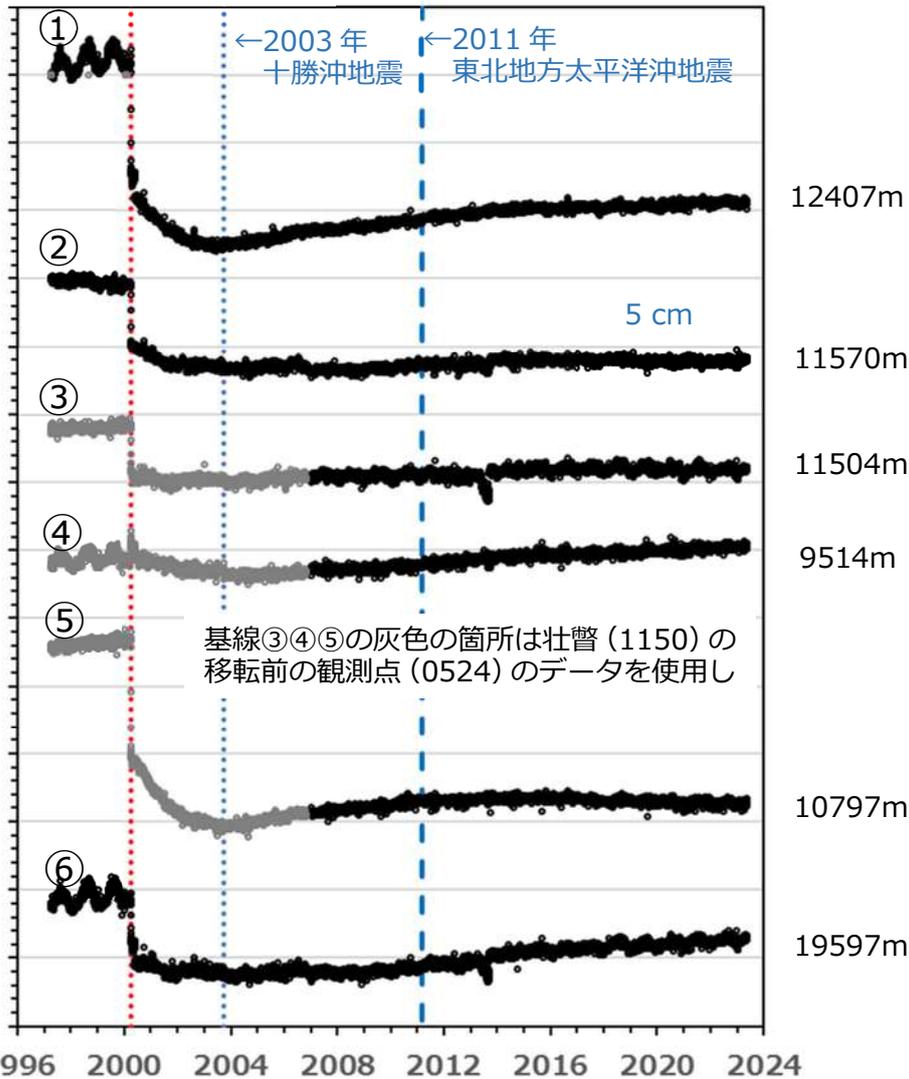


図8 有珠山 GNSS連続観測による基線長変化（2010年1月～2023年6月）及び観測点配置図
 グラフ①～⑦は観測点配置図の基線①～⑦に対応しています。
 グラフの空白部分は欠測を示します。

- ・ 基線①では、期間を通じて1977年噴火に伴う貫入岩体の熱収縮によると考えられる短縮が観測されています。
- ・ 有珠山周辺を挟む長基線（基線⑤～⑦）では、現在、特段の変化は観測されていません。

1-a 基線長変化

↓2000年有珠山噴火



1-b 壮瞥-虻田-伊達の面積ひずみ

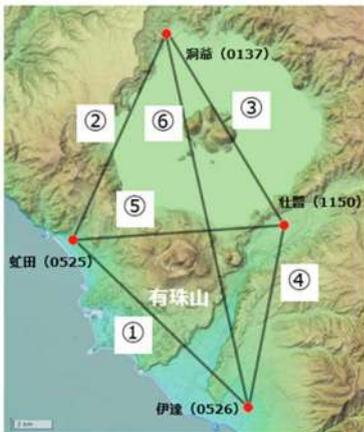
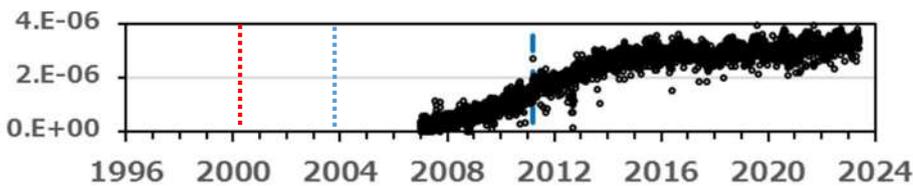


図9 有珠山 GNSS 連続観測による基線長変化(1-a、1997年3月26日～2023年5月18日)と壮瞥-虻田-伊達の面積ひずみ(1-b、2007年1月1日～2023年5月18日)
国土地理院と気象庁の解析結果(F3解及びF5、J1解)を使用。

主な基線長変化の経過は以下の通り。

- ・2000年噴火前まで②以外の基線で伸長が続く
- ・2000年噴火前後で④以外の基線に急激な短縮が見られる
- ・2003年9月以降、③以外の基線がわずかな伸長に転じる

また、2014年頃まで面積ひずみの増大がみられたが、それ以降特段の変化は認められない。

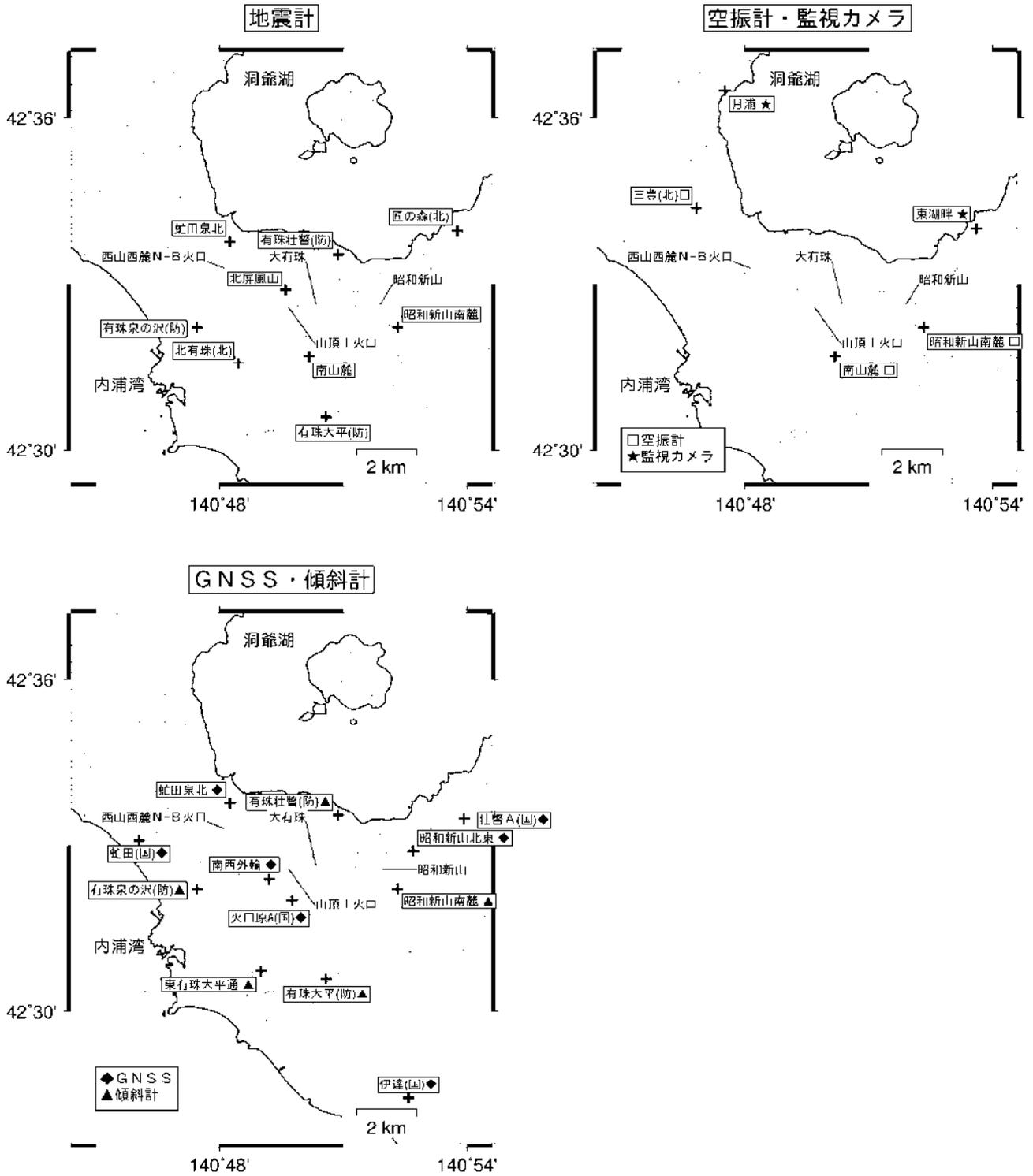


図10 有珠山 観測点配置図

+印は観測点の位置を示します。
気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。
(国)：国土地理院
(北)：北海道大学
(防)：国立研究開発法人防災科学技術研究所